

1 所在地 高知県須崎市吾井ノ郷為貞

2 調査期間 一九九六年（平8）九月～一九九七年二月

3 発掘機関
(財)高知県埋蔵文化財センター

4 調査担当者 小嶋博満

5 遺跡の種類 集落跡

6 遺跡の年代 弥生時代、中世

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

調査地は、須崎市吾井ノ郷為貞に位置し、当遺跡では、過去に弥生時代の銅銚二点が出土している。また、室町時代中期の角塔婆が

あり、須崎市内の現存する墳墓では最も古い明応五年（一四九六）の年紀を有している。調査は、四国横断自動車道建設に伴うもので、工事予定区域内に所在する遺跡について実施した。

その結果、一二世紀～一四世紀の掘立柱建物、溝、

土坑、集石遺跡、石垣、基壇状建物とみられるものなどを検出し集落跡と確認した。木簡が出土したのは、調査区南側で、集落跡から南東に十数m離れた地点である。遺物は弥生時代から近代までを含み、特に多数出土したのは、瓦器、青磁などである。木簡は、遺構に伴うものではなく、近世の遺物を数点含む耕作土(Ⅱ層)の下、青灰色粘質土砂層(Ⅲ層)から一〇点出土した。そのほか、集落跡付近の包含層から九世紀前半と思われる墨書土器(須恵器)が出土した。底部に「□□」^{〔道カ〕}とある。

8 木簡の釈文・内容

(1) $(128) \times 20 \times 8$ 019

(2) $(146) \times 18 \times 6$ 019

(3) $145 \times 35 \times 5$ 011

(4) $(205) \times 20 \times 5$ 019

(5) $177 \times 20 \times 5$ 051

(6) $(137) \times 37 \times 8$ 081

(7) $(175) \times 32 \times 6$ 081



(1)



(2)



(3)



(4)



(5)



(6)



(8)



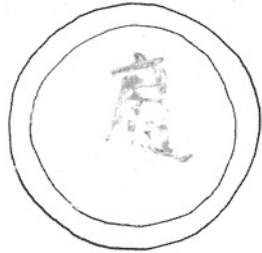
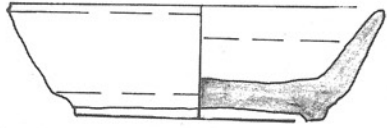
(9)



(10)



(7)



墨書土器

